

修了式／訓話

校長 竹井 茂雄

本日、ついに今年度の修了式を迎えました。

学校全体としては、ほぼこの1年間、20日前のあの3月11日までは、順調に、さしたる問題も無く、所定の教育活動を展開できておりました。偏に、生徒諸君一人ひとりがそれぞれに、本校生であるという誇りと自覚とを持って、それぞれの場面で頑張ってくれたお蔭、と諸君の頑張りに、先ず、深い敬意を表するものであります。

6月に開催された今年度の「第9回桜瑛祭」も、“本校ならでは”の、保護者の皆様の全面的なご協力をも頂いて、大成功でありましたし、10月の「体育祭」も、2日遅れの開催ではありましたが、諸君のご理解とご協力とによって、これも大いに盛り上がり、本当に素晴らしいものであります。行事の一々を挙げることは差し控えますが、それぞれの行事における諸君の頑張りとは諸々へのご協力とに、改めて感謝し、心からの賛辞を送る次第であります。

本来であれば、1週間前の24日に行なわれていた筈のこの修了式であります。可能な限りは授業時間を確保すべきであると考え、今年度最後の日となる本日まで延期したものであります。11日の「東北地方太平洋沖地震」発生以来の、諸君の協力的で自律的な、節度ある態度を高く評価するものであります。

具体的に申し上げるなら、地震発生時の、そして、その後の諸君の、実に適切な対応に、私は心から感謝している一人なのであります。あの日の「芸術鑑賞会」“パフォーマンスバンド響”の開演予定は、午後1時40分でありました。しかし、諸君の集まりが早かったものですから、10分早く始まったのであります。予定どおりの開演であったなら、彼らの演奏の途中で、今までに経験したことのない、あの大きな揺れに遭遇していたに違いありません。「花束贈呈」までが終わって、アンコール演奏をお願いすべく拍手の態勢に入ろうとした、その瞬間にあの物凄い揺れが襲ってきたのでした。演奏が一応は終わっておりましたので、バンドのメンバーに遠慮することなく、先生方も、諸君に避難するように、指示を出せたのだと思うのです。大変な恐怖や不安にも諸君は自分を見失うことなく、規律ある態度で整然と体育館の外へと、誰一人として掠り傷一つ負うこともなく、避難してくれました。諸君の早めの集合が、そして、収まらない激しい揺れに対する恐怖から一刻も早く安全な場所へ、と逸る気持ちを誰もが抑えて、整然と避難してくれたことが、一人の怪我人を出すこともなく、避難行動を完了できた、大きな要因であったわけでありました。本校に勤務する者を代表して、改めて、深謝の意を表する次第であります。

先の地震による甚大な被害により、今月後半は、授業も再試験も、何もできませんでした。したがって、諸君の「通知票」の「学年成績」が30点未満である場合、或いは「欠課時数」が年間の授業時数の5分の1を超えている場合でも、本来ならば「原級留置」即ち「落第」で、該当の生徒は進級できないわけではありますが、今年度末に限って、「原級留置」とはせず、仮の進級を認めることといたしました。再試験という制度が全く活用されないままの「原級留置」との処分は、血も涙も無い、教育的な配慮を著しく欠いたもの、

と思量するからであります。がしかし、この「仮進級」は、先程も申し上げたとおり、今年度末に限った、緊急避難措置でありますし、あくまでも、その進級は、文字どおり「仮」のものでありますから、単位を修得できていない科目が1科目でもある生徒は、新年度に与えられるチャンスを須く活かさねばならないのであります。本来は年度末に行なわれるべき再試験、或いは欠課時数の超過分を補うための補習が、新年度に行なわれるのでありますから、できるだけ早い時期に、単位未修得の状態から抜け出さねばならないのは、当然のことです。不幸にして、「完全進級」を果たせなかった諸君の、一層の奮起を求めます。

今回は、明日・4月1日から7日までの、例年の半分の春休みではありますが、今年度のこの1年間を心静かに振り返っていただきたい、謙虚に反省していただきたい、と思うのであります。学習成績をはじめとする、自分の生活の今年度の全てを厳しくチェックしてください。

来たる23年度には、近隣中学校からも地域社会からも、より確かな信頼を得られるよう、一層の高みを目指して、全員で大いに頑張ろうではありませんか。

生徒諸君の誰にとっても、「今が奮起の時、今こそ努力の時」であることを強調し、明日からではなく只今から、全ての面で更に大いに努力してくれることを期待して訓話といたします。どうぞ頑張ってください。努力して身に付けた実力は、決して嘘を突きません。結果は後から必ず付いて来るものであります。お互いに頑張りましょう。